

“**重大事故**”が多発する「**薄暮れ時**」(うすぐれじ)に要注意

秋から冬にかけて増加する交通事故

2015年9月11日

秋から冬にかけては**交通事故が増加**する傾向があるので注意が必要です。

特に気を引き締めて運転したいのが、**日没後から辺りが暗くなるまでの「薄暮れ時」と呼ばれる時間帯**。

薄暗い上に、**短時間で急速に辺りが暗くなる**ため、ドライバー・歩行者ともに**視界が悪くなり**がちで、最も事故発生件数が多い**危険な時間帯**となっています。

しかも、夏から秋にかけて、**日没から完全に暗くなるまでの時間が急激に短くなる**という現象が起きます。より注意が必要になるでしょう。

2015年9月21日から30日までの10日間、「**秋の全国交通安全運動**」が実施されます。

このキャンペーンは、秋から冬にかけて増加傾向を示す、**交通事故・交通死亡事故の防止**が目的です。

警視庁がまとめた2014年中の「交通事故発生状況」では、薄暮れ時を含む**16時～18時の事故発生件数が全体の14.1%**を占め、全時間帯中で**最多**となっています。

その理由のひとつとして挙げられるのは、薄暮れ時に起きる、**急激な明るさの低下**。

日中に比べるとかなり暗い状況なのですが、**夜と呼ぶにはまだ早い**ため、ヘッドライトを点灯すべきか迷うドライバーは多いよう。

しかし、ヘッドライトの点灯を**迷っているあいだに**、周囲はさらに暗さを増し、**ドライバーは歩行者などの存在に気付きづらくなってしま**うのです。

しかも、夏から秋にかけて、**日没から完全に暗くなるまでの時間が急激に短くなる**という現象が起きます。

薄暮れ時の事故リスクはより高まると考えてもよさそうです。

薄暮れ時の事故を防ぐために、ドライバーが第一に心掛けたいのは、**ヘッドライトの早めの点灯**です。

「まだ明るいから」「まだ早い時間だから」と**油断しないこと**が大切。

ライトを点けることで、**ドライバー自身の視界も良くなりますし、歩行者に車の存在を知らせる**こともできます。

また、**歩行者の往来が多い場所(大型スーパーなど)**や**飛び出しが予想できる住宅街**などでは、**スピードを落として運転**することも重要です。

「**スピード**」出し過ぎ、**強制的に信号を赤に**…事故件数減

2015年09月11日

交差点の手前で**スピードを出し過ぎると**、**信号が強制的に赤になる「速度感応型信号機」**が、香川県内で効果を上げている。試験的に設置したところ、**事故件数が大幅に減少**。

同信号機は、**交差点の数百メートル手前に速度感知器**を置き、**設定した速度を超えると、信号が青の場合は赤に、赤の場合は時間を延長**して、速度超過の車が交差点を通る時には**必ず赤信号になる**ように調整する。スピードの出し過ぎを抑制し、大きな事故を防ぐのが狙い。

一方で、こうした装置が稼働していることは**周知されず**、速度感知器近くに**警告表示もない**。早朝に国道を運転することが多いという男性(55)は、「**全く知らなかった。仕組みが分かっていたら初めからスピードを出さないようになるのに、なぜ周知しないのか**」といぶかしむ。